TTC ゆった～り山行実施記録表　2015 年 6 月 29 日　報告者: YM

山行名	南会津駒止湿原･高清水ﾋﾒｻﾕﾘ自生地･帝釈山(2060m)･田代山(1971m)[福島県]
実施日	平成２７年６月 21 日(日)～22 日(月)　１泊２日　　ハイエース利用
天候／参加人員	天候：晴/曇　レベル：★★　参加者：申込１１名/実施 11 名（男２名／女９名）
ﾊﾟｰﾃｨｽﾀｯﾌ	CL/計画/写真:、 SL/写真:、　会計: 、　救護:、　スタッフ名削除
参加メンバ	A 班：(班長)、 B 班：(班長)、　参加者氏名削除
費用 **一人;22,100 円** ｶﾝﾊﾟ金 1,287 円	**２２，１００円（交通費￥10,542+宿泊費･入園料・通信費等￥11,441+カンパ金￥117)** 交通費　ﾊｲｴｰｽﾚﾝﾀﾙ料金(@16,848x2)¥33,696、ﾄﾞﾗｲﾊﾞ謝礼(@18,00x2+宿泊加算 2,000)¥38,000、燃料代（@130ｘ（700+50）/5）¥19,500,高速料金：東名道厚木-東京@1500ｘ2、首都高速@930x2、東北道浦和-西那須野塩原 4480ｘ2）¥13,820、ﾄﾞﾗｲﾊﾞ宿泊費¥10,950/交通費計¥115,966/一人@10,542 駒止湿原協力金@100、高清水自然公園入園料金@300、宿泊費(@10,00+消費税 800+入湯税 150)@10,950、通信費￥1,000/宿泊費･その他￥125,850/一人当り@11,441/一人当たり費用@21、983 集金@22,100-費用@21,983＝@117、 残金:@117x11＝￥1,287(ｶﾝﾊﾟ金会計に繰り入れ)

所要時間		6/21(日)：駒止湿原+高清水自然公園			6/22(月)：帝釈山・田代山登山		
		歩行時間	休憩時間	行動時間	歩行時間	休憩時間	行動時間
	ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ	1:00+0:30	―	―	4:40	―	―
	計画	1:30+1:00	0:30+0	2:00+1:00	5:10	1:40	6:50
	実行	**0:55+0:43**	**0:30+0**	**1:25+0:43**	**5:31**	**1:29**	**7:00**

実行コースタイム記録

◆6/21(日) 天候:曇/晴 （駒止湿原[歩行距離 3km]･高清水ヒメサユリ自生地 Walking）

東名道/首都高速/東北道　(ﾄｲﾚ休憩)　R400/R121　(ﾄｲﾚ休憩･買い物)　R289

鳶尾＝＝厚木ｺｰｶﾄﾞ-前＝＝厚木 IC＝＝東京料金所＝＝浦和料金所＝＝羽生 PA＝＝西那須野塩原 IC＝＝道の駅田島＝＝

6:00　6：09/6：16　6：22　6：42　6：47　7：42/7：54　8：53　9：36/9：57

0:20　(昼食) 0:12　0:23　(ﾋﾒｻﾕﾘ散策 0:43)　R402/　R352

駒止湿原駐車場---(大谷地)---白樺谷地分岐---駒止湿原駐車場＝＝高清水ﾋﾒｻﾕﾘ自生地＝＝桧枝岐温泉丸屋旅館(泊)

10:39/10:45　11:05/11:35　11:47　12:10/12:19　13:07/13:50　14:50 到着

◆6/22(月)天候:曇/晴 （帝釈山-田代山往復;累積標高差:登り/下りとも 400m/歩行距離:約 7km）

朝食 5:55～ (ﾄｲﾚ/体操) 0:23　0:26　1:38　(ﾄｲﾚ/昼食)　0:25　《湿原一周》　0:17　(ﾄｲﾚ)　1:34　0:48

丸屋旅館＝馬坂峠---(小休止)--帝釈山頂上---田代山避難小屋---田代山頂上標識---田代山避難小屋---帝釈山頂上--

6:43　7:24/7:40　8:09/8:14　8:40/8:50　10:28/11:00　11：25/11：31　11:48/12:08　13:42/13:52

(ﾄｲﾚ/体操) 馬坂林道 15km/R352 (ﾄｲﾚ/買い物) R400　東北道　(夕食)　首都高/東名道

馬坂峠＝＝桧枝岐温泉＝＝道の駅田島＝＝西那須野塩原 IC＝＝羽生 PA＝＝浦和料金所＝＝厚木 IC＝ｺｰｶﾄﾞ前＝＝鳶尾

14:40/14:57　15:37　16:43/17:06　17:31　18:52/19:25　19:47　20:47　20:55　21:10 着

コースの概要、特記事項、反省事項等

2 年前の同時期、ﾋﾒｻﾕﾘとｵｻﾞﾊﾞｸﾞｻを訪ねるﾌﾗﾜｰﾊｲｷﾝｸﾞを計画したが、諸般の事情で実施できなかった計画を remake して再計画した。ﾋﾒｻﾕﾘ(別名:ｵﾄﾒﾕﾘ)は、朝日岳、飯豊山、吾妻山、守門岳･浅草岳とその周辺の新潟、福島、山形、宮城南部県境のごく限られた山深い山中にしか自生していない希少価値の高い日本固有種の高山植物で、過去 18 年間の TTC 山行でも守門岳･浅草岳や飯豊山で 1,2 度出会った程度に過ぎず、環境省ﾚｯﾄﾘｽﾄの準絶滅危惧種に指定されている山男･山女憧れの花だ。ただし、南会津町南郷地区、喜多方市、新潟三条市の 3 ヶ所に地元自治体が、ﾋﾒｻﾕﾘを大切に保護管理している自生地があることが知られており、ﾊｰﾄﾞな山に行かなくても、手軽にﾋﾒｻﾕﾘに出合うことが可能だ。前記 3 ヶ所の自生地のうち、日本最大規模の 100 万株が群生する南郷高清水ﾋﾒｻﾕﾘ自生地を訪ねることにした。他方、福島･栃木県境に 2000m 級の山が連なる帝釈山系の盟主帝釈山(2060m)とその隣の台倉高山に、6/下旬のﾋﾒｻﾕﾘの開花時期とほぼ同時期に見頃を迎えるｹｼ科ｵｻﾊﾞｸﾞｻ属の一属一種で、世界中探しても近隣種が見当たらないという極めて稀有な日本固有種ｵｻﾊﾞｸﾞｻの群生地がある。我国では、帝釈山付近の他、早池峰山、北八ヶ岳、恵那山等のごく限られた亜高山帯の針葉樹林帯の林床にのみ自生しているという。また、これに合わせﾜﾀｽｹﾞ等の花々が咲き揃う南会津最大の湿原「駒止湿原」(標高～1150m)と帝釈山から稜線沿いに約 2.5km の至近距離にある花の百名山田代山(1971m)の頂上付近に広がる「田代山湿原」を併せて訪ねるﾌﾟﾗﾝとした。宿泊先には、帝釈山の登山口「馬坂峠」への林道入口である桧枝岐村とし、かねてから一度宿泊してみたいと狙っていたそばの宿「丸屋」と交渉し、格安での宿泊を受けていただくことができた。まる屋は桧枝岐の郷土料理として著名な「裁ちｿﾊﾞ」の地元随一の名店として、TTC でも度々立ち寄ってお

り、その絶品の裁ちｿﾊﾞの味は多くのTTCﾒﾝﾊﾞにはお馴染みである。いつも民宿泊のTTCであるが、今回は少々贅沢に源泉かけ流しの温泉と桧枝岐の郷土料理[山人(ﾏﾓｰﾄﾞ)料理]のﾌﾙｺｰｽを堪能するゆった～り計画とした。

◆6/21(日)：日中は雨という予報の中、ｼﾆｱﾒﾝﾊﾞ(8名)中心の11名がﾊｲｴｰｽに乗車して厚木を出発。この日の行動は、会津田島の道の駅に到着した時点で、現地の天気を見て判断することで、ﾒﾝﾊﾞの了解を戴いた。会津田島に到着してみると、雨天どころか薄日が射す登山日和で、考えるまでもなく計画通り実施を決め、駒止湿原に向かう。梅雨中の日曜日のためか、首都高も東北道も予想以上に空いており、計画より1時間40分前の10:40AMに到着。数分待って一番近い駐車場に案内された。早速一人100円の協力金を支払って湿原に向かう。駒止湿原は3つのｴﾘｱがあるが、今回は最大の「大谷地湿原」を1時間半かけて周遊するｺｰｽとした。湿原の木道を辿り、ほぼ中心部の木製ﾃﾞｯｷに陣取り、少々早い時刻であったが持参の昼飯を広げて、高原の爽やかな空気と花々に囲まれてﾗﾝﾁﾊﾟｰﾃｨを楽しんだ。広大な湿原一面にﾜﾀｽｹﾞが揺れ、あちこちにｺﾊﾞｲｹｲｿｳの穂状の白花が豪華に咲き誇り、ﾚﾝｹﾞﾂﾂｼﾞの朱色がｱｸｾﾝﾄを付けていた。ﾋｵｳｷﾞｱﾔﾒとﾆｯｺｳｷｽｹﾞはまだ蕾、ﾄｷｿｳ、ｻﾌﾗﾝ、ﾀﾃﾔﾏﾘﾝﾄﾞｳの花は見当たらなかったが、ｽﾞﾐとﾀﾆｳﾂｷﾞの花は今を盛りに咲いていた。

標高～1100mの駒止峠から南郷地区山口まで標高差600m下って、R401の鳥居峠手前から、再び山道に入り、高清水自然公園先約4kmの標高～950mの谷間に広がる広大なﾋﾒｻﾕﾘ自生地まで、約50分を要して到着。この日は、ﾋﾒｻﾕﾘ祭のｲﾍﾞﾝﾄがあった翌日の日曜日で、大勢の見学客で混雑しているかと思っていたが、予想に反し駐車場はｶﾞﾗ空きで、見学客もﾁﾗﾎﾗ。お目当てのﾋﾒｻﾕﾘは咲き始めたばかりらしく、開花している花の数は予想していたよりかなり少ない上、金色と赤のｽﾄﾗｲﾌﾟの毛虫が異常に多くみられた。監視員に聞いてみると、今年は、発芽は例年より早かったが、4月の低温の影響で、例年より開花が遅れ、見頃はあと1週間以上あととのこと。また、昨年ごろから、ﾏｲﾏｲｶﾞが大量発生し、派手々々の毛虫はその幼虫だという。今後虫害がこれ以上大きくならなければよいのだがと心配だ。ﾄﾞﾗｲﾊﾞのＩさんも一緒に、左側の斜面を1周したのち、右側の斜面を一周し、1本の茎に上品なﾋﾟﾝｸ色の花を数輪咲かせているﾋﾒｻﾕﾘを間近で観察し、写真に収めるに忙しかった。ﾋﾒｻﾕﾘは球根が分球して、花を咲かせるまで、5-7年。複数の花を咲かせるまでに成長するのに10数年の時間を要するとのこと。自生地の周囲を鹿除けの電気柵で囲い、ﾋﾒｻﾕﾘを保護してここまでにするには10-20年単位での努力が必要であり、通常ならば梅雨時の天候の悪い中、1500-2000m級の深山に行かなければ会えないﾋﾒｻﾕﾘの群落に、300円の入園料を払っただけで、会わせてもらえるのは実にありがたい。広大な草原の斜面が広がる自生地には、ﾋﾒｻﾕﾘの他、食べ頃のﾜﾗﾋﾞがあちこちに顔を出しており、ﾋﾒｻﾕﾘより、そちらの方が気になるﾒﾝﾊﾞもいたようだったが・・・・。

ﾋﾒｻﾕﾘに別れを告げ、一路R352(沼田街道)を南下し、1時間を要して本日の宿泊先である桧枝岐温泉「丸屋旅館」に予定より大分早い3:00PM前に到着し、女将の出迎えを受ける。旅館は明治初期から七代続く裁ちｿﾊﾞの老舗「まる屋」の左隣にあり、客室は10畳和室5室のみで、今日はTTC12名の貸切。部屋に落ち着くと、各部屋にお抹茶のｾｯﾄが用意されており、早速ｾﾙﾌｻｰﾋﾞｽで銘々が、あるいは茶道の心得のあるﾒﾝﾊﾞにお茶をたててもらい、茶菓子を頂いて一服した後、檜の香が薫る源泉かけ流しの温泉に浸かって、一日の汗を流し、いささか乳酸のたまった筋肉をほぐしてﾘﾗｯｸｽ。宿に到着してすぐに降り出した雨が止んだのを見計らって、全員連れだって、浴衣姿で、すぐ隣にある桧枝岐歌舞伎舞台と縁切地蔵尊を見学に出かけた。かつての桧枝岐集落は、沼田から大清水・三平峠･尾瀬沼東岸・沼山峠を越え、会津に至る重要な街道であった沼田街道の宿場町として栄えた地。芸術性の高い歌舞伎も盛んであったという。往時の沼田街道を行き来する旅人は、この地のﾗﾝﾄﾞﾏｰｸである三平峠から燧ｶﾞ岳を、沼山峠から会津駒ヶ岳を仰ぎ見ながら一休みしたに違いない。明治以降、沼田街道を行き来する旅人も途絶え、桧枝岐は、雪の消える夏の半年間のみ、国道が通じる南会津側から車でのｱｸｾｽが可能であるが、晩秋～春までの半年間は、深い雪に閉ざされてしまう秘境になってしまった。米の採れないこの地の主食はｿﾊﾞ。独特の製法で作られる10割そば「裁ちｿﾊﾞ」や、付近の沢で独特の竹のｽﾞｹで捕獲する(ﾊｺﾈ)ｻﾝｼｮｳｳｵ、岩魚、山菜等を中心にした独特の郷土料理[山人(ﾔﾏﾓｰﾄﾞ)料理]がそのまま残っている。その後、温泉の採掘に成功し、尾瀬ﾌﾞｰﾑにも乗って、尾瀬の北の玄関口として再び脚光を浴びるようになって今日に至っているようだ。

夕餉の膳に並んだ山人料理は15品。岩魚の刺身･塩焼きは勿論、山菜にｻﾝｼｮｳｳｵの天ぷら、ｺｺﾞﾐ、山ｳﾄﾞ、野ﾌｷ、ｲﾗｸｻ等の山菜主材の料理類、山人鍋、ｿﾊﾞ粉のすいとん、裁ちｿﾊﾞ、ﾊｯﾄｳ（そば餅のｴｺﾞﾏ和え）等。さすがに完食したﾒﾝﾊﾞは一人もいなかった。因みに裁ちｿﾊﾞは、地元桧枝岐産のｿﾊﾞ粉のみを水ではなく、お湯で捏ね上げてから、ｸﾚｰﾌﾟ状に薄く延ばし、そのそばｼｰﾄを10枚程度重ねて、菜っきり包丁で細切りにして作るとことから裁ちソバの名が付いたという。普通のｿﾊﾞは折りたたんで裁断するが、裁ちｿﾊﾞは折りたたむと折り目で切れてしまうので、折りたたまずに裁断するという。また、お湯を使って捏ね上げた裁ちｿﾊﾞは、すぐに茹でて食べないと風味が落ちてしまうため、作り置きが困難という欠点があるという。その代り、裁ちｿﾊﾞは、そばの香りをしっかり残したまま、二･八ｿﾊﾞのようにのど越しの良いのが特徴で、その滑らかな10割そばの食感は、桧枝岐の裁ちｿﾊﾞ以外に食したことがない。

◆6/22(月)：7:00AM出発に間に合うよう朝食時間の前倒しをお願いし、快く応じていただいた。通常より1時間半早めの6:00AM前に朝食膳が並び、昼食のｵﾆｷﾞﾘも間に合うように準備していただいた。おかげで、朝風呂

に入り、ゆっくり朝食を摂って、計画より約20分前倒しして出発できた。未舗装の舟岐川林道を距離約15km/標高差にして約800m登って、標高1790mの馬坂峠まで、約40分を要して到着。20台程度駐車できる峠の広場に駐車中の車は5-6台だが、ﾜﾝﾎﾞｯｸｽｶｰの乗合ﾀｸｼで上がってくる登山者も多い。峠の立派なﾊﾞｲｵﾄｲﾚで用を足し、ｽﾄﾚｯﾁ体操を済ませてから、標高差270mを残す帝釈山系の盟主「帝釈山(2060m)」頂上を目指して登山開始。いきなり針葉樹林帯の急登が続く。木の階段、木道等、登山道はよく整備されてはいるが、滑りやすい濡れた木道に注意を集中しながら歩みを進める。のっけから、お目当ての可憐な白い小花を咲かせるｵｻﾊﾞｸﾞｻが現れるが、まだ咲き初めたばかりのようで、蕾が多い。

約1時間で登り着いた2百名山「帝釈山」の頂上には登山者が数人。気温は9℃で無風曇天。天気が良ければ、頂上から360度の大展望が楽しめると期待していたが、頂上はｶﾞｽに包まれ、遠方の眺望は得られず仕舞い。その代り、頂上付近の日当たりのよい場所には、ｱｽﾞﾏｼｬｸﾅｹﾞの花が咲き、ｺｹﾓﾓの可憐な花が見られた。また、頂上付近のごく限られた場所にﾊｲﾏﾂも見られた。

ここから花の百名山「田代山」には、見晴らしの良い露岩の尾根を標高差100mほど下り、後は針葉樹林帯が続く標高1900m台のﾋﾟｰｸを2つ3つ越えて、最後に標高差50mほどを一登りすると、田代山頂上の最高標高点1971m付近にある田代山避難小屋に、馬坂峠を出発してから約3時間弱、10:30AM頃に到着。この場所は、標高1900m超の田代山頂上一帯に東西約600m、南北約500m/面積約25haに広がる高層湿原「田代山湿原」の西端にあたる。帝釈山頂上からここまでの所要時間は、TTCﾍﾟｰｽで往路/復路とも約1時間30分。この間は、変化に乏しく、眺望の利かないやや薄暗い樹林帯の中の歩行が続くが、ｵｻﾊﾞｸﾞｻが群生しており、登山者の目を楽しませてくれる。また、雪が解けて泥濘や水たまりも多く、最低鞍部付近には、まだ残雪がしっかり残っている箇所もあり、危険個所はないが、決して歩きやすい道とは言えない。

昼には少々早い時間ではあったが、ﾄｲﾚ休憩を兼ねて、田代山避難小屋前の休憩ﾍﾞﾝﾁを陣取って昼食。丸屋で作ってもらった握り飯を美味しくいただいた。田代山避難小屋は、別名弘法大師堂とも呼ばれている。その訳は、この付近にあった弘法太師堂の祭壇を田代山避難小屋を建設する際に、小屋内に移設したため、避難小屋と弘法大師堂が同居することになった。また、別棟に立派なﾊﾞｲｵ処理式のﾄｲﾚ棟も設置されている。

空腹を満たした後、田代山湿原一周のﾌﾗﾜﾄﾚｯｷﾝｸﾞに出発。湿原に敷かれた木道の通行は、反時計回りの一方通行。湿原に出るとまず一番に目に飛び込んできたのは、緑に色づき始めた湿原のあちこちに咲き始めたﾁﾝｸﾞﾙﾏ、紫色のﾗｯﾊﾟ状の小花を咲かせるﾀﾃﾔﾏﾘﾝﾄﾞｳ、ﾋﾟﾝｸ色の釣鐘状の可憐な花を咲かせるﾋﾒｼｬｸﾅｹﾞ、少し進むと一面ﾜﾀｽｹﾞの白穂が揺れ、蕾を膨らまし始めたばかりのｺﾊﾞｲｹｲｿｳもあちこちに見られた。ここは、駒止湿原より標高が約800m、尾瀬ｶﾞ原より約500m高い高層湿原。ﾜﾀｽｹﾞ、ｺﾊﾞｲｹｲｿｳとも、駒止湿原のそれに比べ、いずれも背丈が低く、花の大きさも小振りである。湿原の東南まで進むと、田代山の最短登山ｺｰｽ「猿倉登山口」に通じる木道を分け、さらに北東に進むと、湿原の真ん中に田代山頂上の大きな標識があり、ここで、ｾﾙﾌﾀｲﾏｰを使って全員集合写真を撮影。晴れていれば、頂上標識の後方の北方向に、桧枝岐の谷を挟んで対峙する名峰「会津駒ヶ岳」から中門岳にかけて、たおやかに広がる山並みが望めるはずなのに、残念ながら厚い雲に阻まれ展望なし。この辺まで進むと、池塘が点在し、ﾜﾀｽｹﾞが群生し、一面ﾜﾀｽｹﾞの白い穂の絨毯を敷きつめたようで、実に壮大な景観がどこまでも続く様は素晴らしいの一語に尽きる。かくして、さわやかな風に吹かれながら、花々に彩られた田代山湿原一周約1.5km、約50分間のﾌﾗﾜｰﾄﾚｯｷﾝｸﾞを楽しんだ後、再び避難小屋に戻って一休みし、後はひたすら往路を帝釈山頂上まで戻り、さらに、Iﾄﾞﾗｲﾊﾞｰが待つ馬坂峠に下山した。天候がやや回復して薄日が射す中、帝釈山頂上付近まで登り返して、後ろを振り返ると、往復してきた田代山に続く2km余りの尾根の山並みの先に大きく聳える田代山の姿を、また、南側の谷筋に、栃木県側から馬坂峠に通じる曲がりくねった林道が一筋、西方に尾瀬に続く台倉高山の稜線が姿を現した。2日の山行で、唯一大展望が開けた一瞬だった。

馬坂峠に無事下山したのは、ここを出発して丁度7時間後の2：40pm。計画では歩行時間5:10/行動時間6:50の設定であったが、実績値はややｵｰﾊﾞの歩行時間5:31/歩行時間7:00。今回参加のｼﾆｱｱﾒﾝﾊﾞ主体の11名のﾒﾝﾊﾞのうち、CLとSLを含む過半数の6名が、種々の理由で、この1年山らしい山に登っていないﾒﾝﾊﾞの再ﾃﾞﾋﾞｭｰ山行であったが、辛いと言って文句を言うﾒﾝﾊﾞは一人もおらず、全員元気に歩き切った。この山行での再ﾃﾞﾋﾞｭｰ組はそれなりに自信を取り戻したものと思われる。馬坂峠には、我々のﾊｲｴｰｽの他、栃木県側の悪路が続く林道をご強引に登ってきて、ﾀｲﾔとﾎｲｰﾙが大破して走行不能になってしまった乗用車が1台残っているのみだった。かの乗用車の持ち主の若い夫妻は、携帯電話の通じない馬坂峠から、通じる可能性がある帝釈山頂上付近まで登り、下界にSOSの電話を掛けると言って出かけて不在とのこと。我々が下山途中で、そんなｶｯﾌﾟﾙにすれ違った覚えはないのだが・・・峠の広場で入念にｸｰﾙﾀﾞｳﾝ体操とﾄｲﾚを済ませ、どろどろに汚れた登山靴の泥土を何とか落としてﾊｲｴｰｽに乗車する頃、大型のﾚｯｶｰ車が、桧枝岐方面から登ってきたが、車の持ち主は我々が峠にいる間には戻ってこなかった。この桧枝岐村主催の帝釈山･台倉高山ｵｻﾊﾞｸﾞｻ祭りの期間中、馬坂峠で8:00AMから正午まで1200個限定の記念ﾊﾞｯﾁを配布するとあったので、IﾄﾞﾗｲﾊﾞｰにTTCﾒﾝﾊﾞ11名分のﾊﾞｯｼﾞをもらっておいてほしいとお願いしてあったが、無事その願いが届き、全員が記念のﾊﾞｯﾁを手にできた。厚木に帰り着くまでは、相当時間を要することから、下山後の温泉入浴割愛の了承を頂き、一路厚木を目指して車を走らせ、馬坂峠を出発して約6時間を要し、9:00pm前に無事厚木に帰り着いた。宇都宮付近で猛烈な夕立に遭遇したが、2日目も行動中雨に遭うことはなかった。